

誰もが安心して生き生きと暮らせる 支え合い、思いやりのまち泉台

泉台校区ふくしのまちづくりプラン

2023年~2027年



ふれあいネットワーク

小倉北区泉台校区社会福祉協議会

ごあいさつ

泉台校区では、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、北九州市で平成5年に開始されたふれあいネットワーク活動に取り組み、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という目的の下、見守り・助け合い・話し合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢化時代となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やホームレスの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉の重要性の高まりが必要とされています。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021－2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「住民ふくしの元気プラン2021～2025」（北九州市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

泉台校区においても新しい課題が生まれてきており、今後地域福祉活動を進めていくためには、地域福祉を担う各種団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、北九州市の地域福祉計画及び地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導により地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員会委員並びにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に、感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

泉台校区社会福祉協議会

会長 村上 隆彦

第1章 計画の目的・意義

泉台校区社会福祉協議会では、ふれあいネットワーク活動に取り組み、幼児から高齢者の見守りや住民の交流の場づくりを通して「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」の実現を目指してきました。しかし、近年の社会情勢や住民意識の変化の影響により、単身世帯の増加や住民同士の関係の希薄化、後継者不足など支え合いの基盤を揺るがす様々な課題が浮かび上がってきました。また、北九州市社会福祉協議会で策定された、社会福祉協議会が中心となって住民・関係機関・団体一緒に地域福祉を推進するための計画、「住民ふくしの元気プラン2021～2025」(北九州市地域福祉活動第六次計画)においては、校区単位の小地域福祉活動計画の策定の推進が基本目標の中に位置づけられています。

泉台校区社会福祉協議会においても、現状を分析し将来の地域福祉活動像を描きながら、長期的に活動を展開するための計画を策定することになりました。

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

泉台校区の様々な福祉課題を解決するために住民の立場で将来の地域の福祉活動像を描きながら、計画的に活動するための計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

泉台校区の住民が「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」を実現するための計画です。

(3) 泉台校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、泉台校区社会福祉協議会が地域福祉を推進する中核的な役割を担う組織としての方針を明らかにするものです。

(4) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会と協同する計画

北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会の計画と連携しながら、地域福祉活動を展開するための計画です。

2 計画の実施期間

令和5年度～9年度までの5か年とします。

ただし、計画に期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

日頃から地域福祉活動に取り組んでいる地域団体関係機関からの意見を踏まえ、泉台校区小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。

令和4年10月に立ち上げた委員会では、町内会長、民生委員、福祉協力員など地域福祉活動者を対象にアンケートを実施し、ふれあい調整会議や策定委員会などで議論を重ね、泉台校区の小地域福祉活動計画を策定しました。

第2章 泉台校区の現状と課題

1 地域社会の動向

(1) 泉台校区の基礎データ

令和4年9月現在

人口	7,927人	世帯数	4,220世帯
14歳以下	1,160人	高齢化率	29.3%
15～64歳	4,442人	一人暮らし高齢者	約520世帯
65～74歳	2,325人	福祉協力員	39人
75歳以上	1,176人	民生児童委員	12人

(2) 校区の概要

泉台校区は、真鶴東より国道3号線沿いの病院、歯科大、高校と多数の賃貸、分譲マンション等が立ち並ぶ市街地域と高台地域の市営住宅や新興住宅に暮らす人達とに分布しています。地域の特徴としては、幼稚園、小学校、高校から県立歯科大まで立地している教育機関に恵まれており、暮らしやすく福祉の風土づくりを目指す校区です。

また、長崎街道自然と歴史的資源に恵まれた人情豊かな泉台校区は、文化歴史を保護伝承する活動や自然を守る活動も活発に行われています。

(3) 泉代校区のスローガン

泉台校区では、ふれあいネットワーク活動にいち早く取り組み、町内会長や民生委員を中心に福祉協力員を配置し、乳幼児から高齢者の見守りを通じて安心して暮らせるまちを目指し、住民相互の信頼をもとに活動を続けてきました。まちづくりのテーマに『思い合うまち』泉台～安全なまちづくりを目指して～、ふれあいネットワークの目指す姿として「支え合い、おもいやりのまち泉台」を掲げ、多彩な活動に取り組んできました。

(4) 泉台校区の取組

○ 高齢者サロン事業

高齢者を対象に、おしゃべりを通してストレス解消し、頭と心と体の健康づくりを目指し開催しています。

○ 生活支援活動

買い物が困難な高齢者を支援するために、ふれあい市場毎月第2月曜日に開催しています。

○ 福祉餅つき大会

年末年始にふれあい訪問を町内ごとに実施しています。

○ ゆうあい交流会

65歳以上の一人暮らしの方を対象に、昼食会を開催し、泉台小学校の児童と交流しています。

○ ウェルクラブ

2 地域の福祉課題

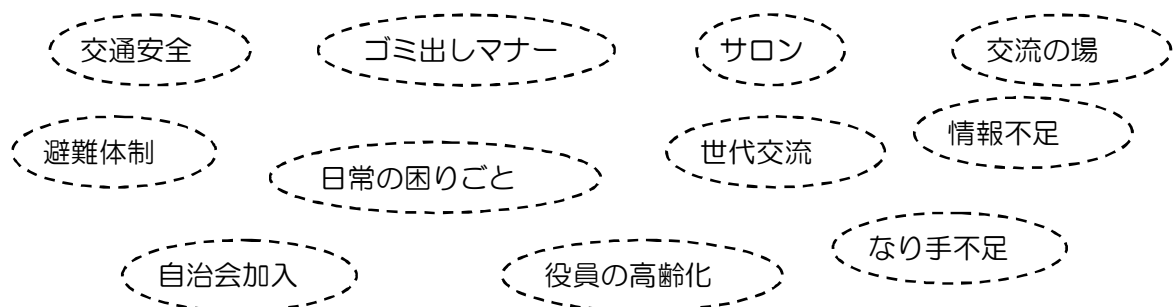
泉台校区では、年間を通して様々な切り口で住みやすい地域社会づくりに取り組んでいます。

しかし、近年の社会情勢の変化に伴い、地域の事情も少しずつ変化してきました。また、誰もが安全・安心に暮らすことができるよう、地域ぐるみで取り組むべき課題に向き合う必要性も高まっています。「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」のためには、次世代の活動者の発掘、育成や関係団体・機関等との連携強化も急務となっています。

連絡調整会議で洗い出した地域の福祉課題

- ・ 高齢者世帯が多く、「リーダー」(避難誘導の人)がいなくて困っている。避難誘導ができない。
- ・ 長期不在の家があり、連絡先が分からず困っている
- ・ ゴミ出しが前日に出されて困っている
- ・ 指定袋以外で出す人がいてカラスのえさ場になり汚い
- ・ 道路標識の取り付け、通学路の子どもたちの安全
- ・ 空き家の管理問題 近辺の雑草、ゴミ

- ・ 町内がバラバラになり、以前のようにはみんなの協力が得られない
- ・ 長期不在の家があり、連絡先が分からず困っている
- ・ マンション内の家族構成がわからない
- ・ 見守り、声かけ
- ・ 電球の取り換えやゴミ出しが負担な人もいる
- ・ 粗大ごみの運び出しの手伝い
- ・ 買い物が大変、足が悪くてタクシー代がかかる



- ・ 世代の違う人たちともっと交流したい
- ・ 町内活動を他人事と思っている人が多い
- ・ 気軽に集まれる場所がない 活動の担い手がいなくなっている
- ・ マンション内の家族構成がわからない
- ・ 町内会役員等なり手がない
- ・ 顔を合わせていない方と話をしたいなと思っている
- ・ 活動の担い手がいなくなっている
- ・ 地域住民全体の交流不足 高齢化、個人主義などにより町内会の維持がだんだん難しくなっていく

第3章 計画体系

1 基本理念

泉台校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところでお互いに支え合いながら安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「誰もが安心して生き生きと暮らせる支え合い、思いやりのまち泉台」という言葉を基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

基本目標1 安心して暮らせるまち

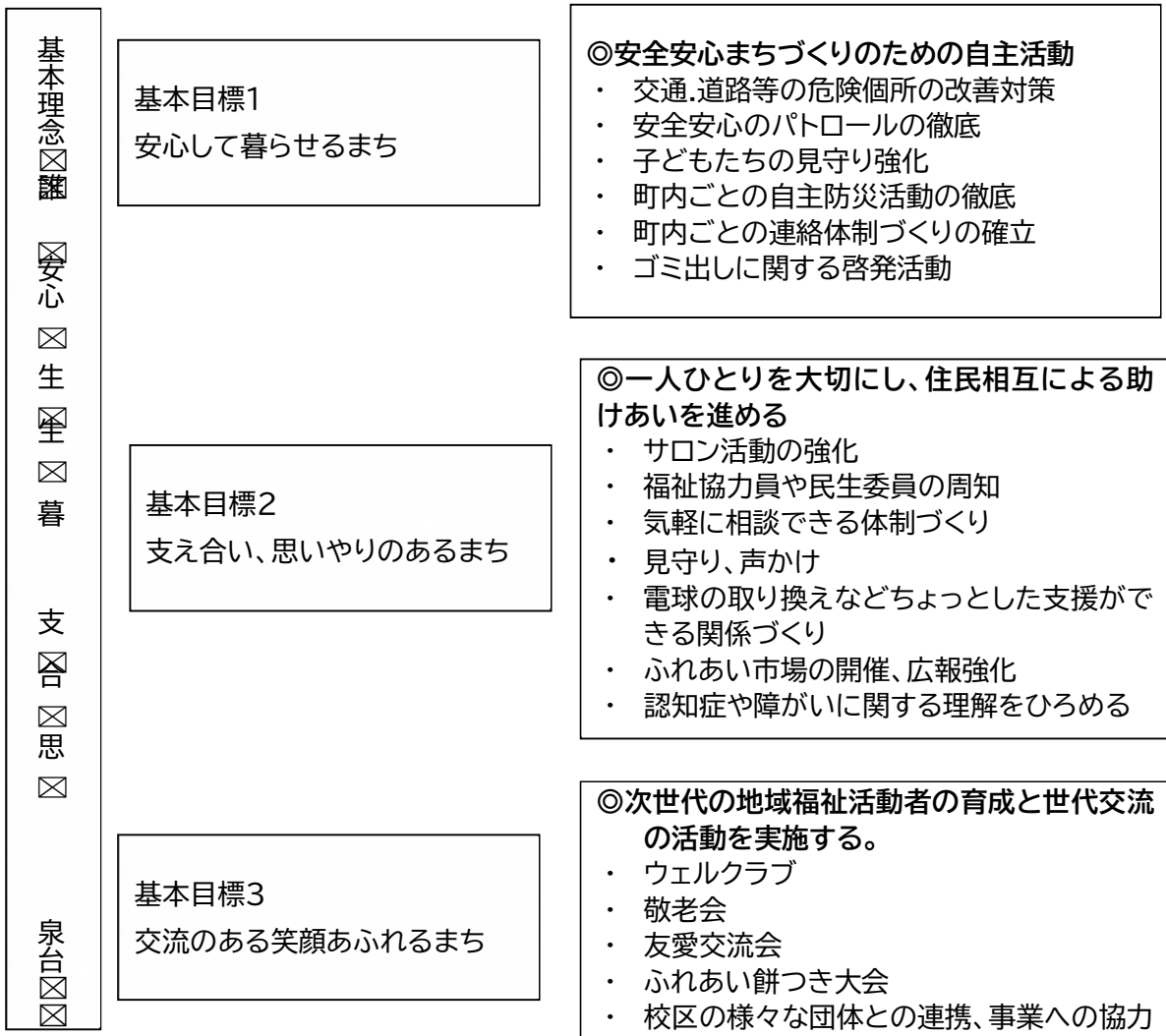
安全安心清潔で美しい地域づくりに努め、支え合いのまちづくりに取り組みます

基本目標2 支え合い、思いやりのあるまち










子どもから高齢者や障がいのある人とのふれあいの輪を広げ、地域の暮らしを支え合うまちづくりに取り組みます。

















基本目標3 交流のある笑顔あふれるまち

次世代の地域活動者の育成と、地域交流、世代交流の絆を深め、住み良い楽しいまちづくりに取り組みます。



3 重点実施項目

重点実施項目1	安全安心まちづくりのための自主活動						
1課題背景および地域の現状							
<p>泉台校区では安全パトロールや防災への取り組み、清掃活動、登下校の児童の見守り等々のさまざまな活動に取り組んでいる。しかしながらその活動は一部の人のみの活動であり、広く地域の人たちに浸透していないのが現状である。またこれらの活動による成果も知られていない。</p>							
2活動の方針・目標							
<p>安全安心のための自主活動のために、安全パトロールや防災への取り組み、清掃活動、登下校の児童の見守り等々の成果を地域の人に周知してもらうとともに、その成果と問題点を明確にしてより緻密な活動を行う。</p>							
3段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
1.校区内(各町内会)における交通・道路・設備等の危険個所の把握。(洗い出し)	まち協.自治会.社協.警察.学校.PTA.保育園.安心安全パトロール隊.民生委員						学校、PTAとの連携
2.児童の登下校の見守り箇所の見直しと見守り参加者の増員	同上						
3.校区全体と各町内会の自主防災マップづくりのための調査.協議.検討。	まち協.自治会、老人会、婦人会、民生委員、PTA、行政						日頃の見守り活動と連動した活動とする
4.災害弱者の把握と避難計画の見直し	同上						
5.防災に対する住民意識の向上のための啓発活動	同上						
6.町内ごとの避難体制づくりの確立	同上						
7.快適で清潔な地域をつくるための定期的な清掃活動を実施し不法投棄などをなくす							みんなが参加しやすい活動にすることが大切。
8.上記取り組みの点検.評価見直しの実施。	まち協.自治会、区社協、関係機関						計画の中間の見直しと最終年度の総括

重点実施項目2	サロン活動の推進と助けあい						
1課題背景および地域の現状							
<p>一人暮らしの高齢者や夫婦二人の高齢者の世帯も多く、自宅に閉じこもりがちの人が多くなっている。特に集合住宅居住の高齢者はその傾向が強い。市民センターではさまざまな講座など住民が参加できる事業が開催されているが、市民センターまでの距離の遠さが高齢者の足を遠ざけ、参加者は限定されている。</p> <p>住民が日常的に交流する機会の減少から、困りごとの把握や相互の助けあいが難しくなっている。</p>							
2活動の方針・目標							
<p>ふれあって話し合う時間、機会が必要でその場所の提供が急務である。そのために住居に近い所でのサロンの開催、そしてサロン活動の具体的内容の充実をはかることが大切である。声掛け・誘い合い、そして自らが意欲をもって溶け込む活動、魅力ある活動を行う。交流の中から生活の困りごとを把握し、助け合う関係を作る。</p>							
3段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
1. サロン活動へ的高齢者(一人暮らし、夫婦2人)の声を聴き個々の問題点を把握する。	まち協・自治会 老人会・婦人会・食 進・民生委員						高齢者の生の声を聞くこと
2. 上記問題点の解決策を話し合い現在のサロン活動の方針、組織作り、広報、宣伝活動を見直す。	,						
3. サロン活動の拡大、遠距離条件の改善(公民館・マンション・公園等の有効活用を図る)	まち協、自治会 関係機関 マンション管理組合						町内会・老人会との連携 サロン会場複数化
4. サロン活動の広報、内容の充実	まち協、自治会、市民センター、各町内会						
5. 住民の困りごとの把握	まち協、自治会、各町内会 各老人会・クラブ						日頃のふれあいネットワーク活動の充実
6. 日常のちょっとした支援ができる人材の発掘	まち協、自治会、各町内会						
7. 上記取り組みの点検、評価、見直しの実施	まち協、自治会、民生委員、関係機関						計画の中間の見直しと最終年度の総括

重点実施項目3	次世代地域福祉活動者の人材発掘と育成						
1課題背景および地域の現状							
<p>地域の課題の中で出ているいろいろな問題を整理すると、ふれあいネットワーク活動による様々な活動が地域の人たちに、まだまだ浸透していないということが現状である。人と人の繋がりやふれあいが希薄化している中で、活動の中心を担う新規地域福祉活動者を発掘するのは困難であり、現状地域福祉活動者の高齢化が進む中、ますます複雑化・多様化する地域福祉ニーズへの対応が難しくなっている状況である。</p>							
2活動の方針・目標							
<p>ふれあいネットワーク活動をもっと地域の人たちに身近なもの知ってもらうために、これまでの活動を広報紙だけでなく SNS など発信するとともに、多世代の交流、地域交流のイベントを創意工夫してみんなが、気楽に参加できる(参加したくなる)福祉活動を行う。また次世代への取り組みを通して、保護者に地域福祉に対する関心を高める。</p>							
3段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
1.社協活動、事業のPR強化 (広報紙やSNSの活用により、活動への参加を呼び掛ける)	まち協・自治会老人会・婦人会・食進・民生委員・PTA・市民センター・区社協						様々な媒体を使った広報活動の充実により、地域住民の関心を高める。
2.事業や活動の見直しと充実化(まつり、敬老会・福祉餅つきの開催等)	同上						みんなが参加しやすい活動改善。
3.若い人の意識調査	学校・保育園・PTA・子育てサポーター						子育て中の保護者を巻き込む工夫が必要
4.世代間交流、地域間交流のための行事等の創意工夫。	同上						
5.ウエルクラブ活動の学校の理解を深める	PTA						
6ウエルクラブ活動の充実、広報強化	まち協・自治会老人会・婦人会・食進・民生委員・学校・PTA・市民センター・区社協						
7上記取り組みの点検、評価、見直しの実施。	まち協、自治会、関係機関						計画の中間の見直しと最終年度の総括

第4章 計画の推進

1 計画の承認と周知

- (1) 泉台校区社会福祉協議会の総会等を通じた校区活動者への計画の承認と周知
- (2) 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- (3) 計画書概要版の配布や、泉台校区社協だより、泉台市民センターだよりへの掲載等を通じた住民への周知
- (4) 計画を推進していくための広報・啓発活動

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進するために、泉台校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

(2) 計画の進行管理

推進委員会を開催し、各実施項目の進捗状況を確認しながら計画を実施します。

- ① 当年度の事業推進の確認
- ② 年度内における中間確認
- ③ 次年度の事業確認

(3) 計画の評価

計画期間の中間時点で計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

